

# 「安全」と「安心」

《**た**んよう》は皆様の信頼に堅実経営でお応えします。

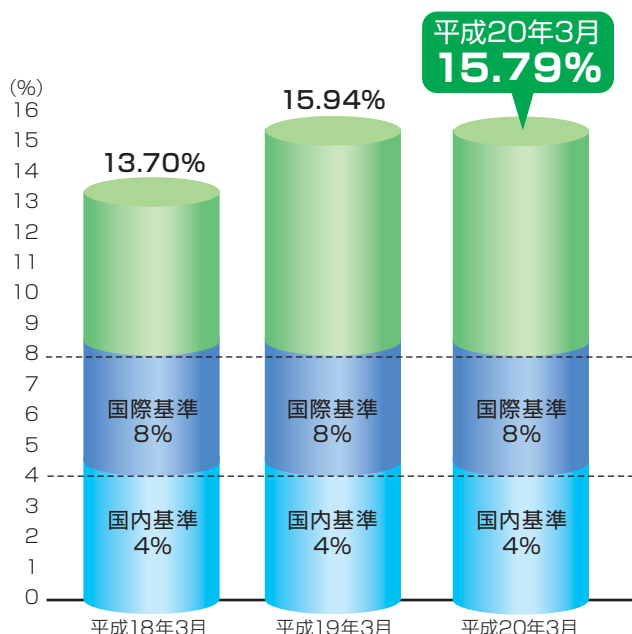
## 自己資本比率 ～自己資本の充実の状況～

- ◎ 金融機関の自己資本比率とは、総資産のうちのリスク・アセット(リスクを有する資産)に対して利益剰余金などの自己資本がどれくらいあるのかを示す指標で、金融機関の「健全性」を表すために最も広く用いられている指標です。具体的には下記の算式により算出しています。

### ◎当庫の平成20年3月末の自己資本比率

$$\text{単体自己資本比率} = \frac{\text{基本的項目 (Tier 1) 33,319百万円} + \text{補完的項目 (Tier 2) 316百万円}}{\text{信用リスクアセット195,278百万円} + \text{オペレーショナル・リスク17,652百万円}} \times 100 = 15.79\%$$

- ◎ 当金庫の平成20年3月末の自己資本比率は、利益の積み上げが図れたものの、今年3月の株式市場の下落に伴い保有有価証券の評価損30億2,600万円を控除したことにより、分子である自己資本総額が前期比15億8,300万円減少の**336億3,500万円**となったため、前期比0.15ポイントマイナスの**15.79%**となりました。
- ◎ 自己資本比率に関しましては、国内基準である4%を大幅に上回っており、経営の健全性・安全性を十分保っております。これは、各資産を一分野に集中させることなくリスク分散を図りながら、一貫して自己資本の充実と資産の健全化に努めてきた結果と評価しております。今後も、引き続きリスク管理を経営上の最重要課題と位置づけ、健全性の確保と収益性の向上に努めてまいります。



- 自己資本は、お客様からお預りしている出資金と過去の事業年度に得られた収益により積み上げられた内部留保金の合計額です。また、自己資本は、金庫が保有する潜在的な損失に対する備えでもあることから、自己資本の充実度を高め、適切な自己資本水準の維持に努める必要があります。
- 自己資本比率は、総資産(貸出金、保有有価証券及び預け金など)とオペレーショナル・リスク相当額の合計額に対する自己資本の割合を示すもので、それが高いほど経営が安定していると判断されます。全ての金融機関は、自己資本比率を一定以上に保つことが義務付けられています。
- 自己資本の額と自己資本比率は、ともに金庫経営の健全性と安全性を評価する重要な指標であり、それぞれの額と比率が大きいほど健全性・安全性が高いこととなります。